

# 修士課程・博士前期課程カリキュラム

# アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科

## 【概要】

ヨーロッパやアメリカの文化の根底にキリスト教文化があることは周知の通りである。1999年4月、人文学部欧米文化学科と総合研究所の日本アングロ・アメリカ研究センターを基礎に、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科は設立された。本研究科では、これまでの日本の大学に欠落していた、アメリカ・ヨーロッパ文化の根源にあるキリスト教理解をベースに、深く新しい文化学の構築をめざし、グローバリゼーションの理念と現実に基づく国際的視野と教養を持つ人材を育成する。

## 【アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科ポリシー】

### ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、人文学の立場から、アメリカ・ヨーロッパ文化および世界のグローバル化の中での日本文化の深層理解に学問的に対応できる能力と幅広い教養を修得し、かつ専攻分野における研究能力または高度な専門性を要する職業に必要な能力をもつ者に修士（アメリカ・ヨーロッパ文化学）を授与する。博士後期課程は、新しいアメリカ・ヨーロッパ文化学および日本文化学の総合的視点にたった専門的見地から、多様化する社会において自立した研究者として貢献する専門的知識と研究方法を習得し、高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力をもつ者に博士（学術）を授与する。

### カリキュラム・ポリシー

1. 博士前期課程は、アメリカ・ヨーロッパ文化学の教育目標であるキリスト教理解を基盤にした新しいアメリカ・ヨーロッパ文化学の教育と研究を実現する科目群として共通必修科目を設置する。
2. また博士前期課程に、学生の専門的ニーズに応える科目群として「アメリカ文化学」「ヨーロッパ文化学」「キリスト教文化学」「日本文化学」の講義科目を設置する。
3. 博士後期課程は、いわゆる単位制を取らず、学生に対して正副2名の指導教授が学生の研究分野に対して専門的な研究指導をする「特殊研究科目」をおく。
4. また博士後期課程は、「博士論文提出資格試験」を課すほか、2編以上の小論文の作成（博士論文に関わるもの）と公開研究会での発表、および語学試験の合格あるいは履修という条件で構成される。
5. 博士論文提出資格試験に合格した者に対して「予備審査用の博士論文」を提出させ、これに合格した者が博士学位申請論文を提出しうるものとする。

### アドミッション・ポリシー

#### 博士前期課程

1. ジェネラリストとして、グローバリゼーションの理念に基づき、自治体、民間レベルの文化交流・国際的業務に携わることをめざす人を求める。
2. アメリカ・ヨーロッパ・キリスト教文化を深く理解し、あらゆる分野で国際的信頼関係に基づいた活動をめざす人を求める。
3. 語学力とともに、国際的な価値観・センスを身につけることをめざす人を求める。
4. 深く新しいアメリカ・ヨーロッパ文化教育に携わることをめざす人を求める。

#### 博士後期課程

新しいアメリカ・ヨーロッパ文化学の構築を目的とし、自立した専門的研究活動を遂行することをめざす人を求める。

**【コース説明】****アメリカ文化学コース**

アメリカの文化や社会を形成してきた思想が現代の社会に与えた影響をはじめ、アメリカの政治、経済などの政策の根底にあるものを解明するため、キリスト教がアメリカでどのように展開されてきたのか、また、どのようにアメリカ独自の思想が発展してきたのか、さらにはその思想に基づき、建国以来、アメリカがどのように政治外交政策、社会政策をとってきたのかを研究することを通じてアメリカ文化を深く探究する。

**ヨーロッパ文化学コース**

ヨーロッパではEUの統合、共通ユーロの誕生など、国民国家を超えた新しい動向としてのグローバリゼーションが台頭してきたが、その後この状況も刻一刻と変化してきている。そこで、EUの成立の基盤となった思想を明らかにし、文化変容の問題や文化の比較等を研究する。さらに、キリスト教思想が哲学、文学、芸術などのヨーロッパ文化全般に与えた影響を深く探究する。

**キリスト教文化学コース**

世界をリードするアメリカ・ヨーロッパ文化の根底にあるキリスト教思想が、古代から現代までどのように展開したのか、欧米文化にどのような影響を与えたのかを歴史的に解明する。特に、ニーバー、キング、ガンジーなどの諸説から“近代世界とキリスト教”の関わりを重点的に研究。さらに、キリスト教思想から現代をどのように理解するかをも追究する。

**日本文化学コース**

日本の思想・文化における倫理観の変遷と意味、明治期以降のプロテスタント・キリスト教の影響、さらにコトバへの感性を通して日本文化のなかの語彙の地層を深め、近代日本における民主主義の根底を追求する。

2018年度 大学院【文化研】 カリキュラム

コース	授業科目	担当者	単位		開講期			対象学年	備考	
			必修	選択	春学期	秋学期	その他			
研究科 目	コア アメリカ・ヨーロッパ文化学総論	オムニバス	2		○			1	必修	
	アメリカ文化学	アメリカ文化学研究A	高橋義文		4	◎			1	演習科目関連の科目選択
		アメリカ文化学研究B	島田由紀		2	○			1	
		アメリカ文化学研究C	森田美千代		4	◎			1	
	ヨーロッパ文化学	ヨーロッパ文化学研究A	片柳榮一		4	◎			1	
		ヨーロッパ文化学研究B	稲田敦子/和田光司		4		◎		1	
		ヨーロッパ文化学研究C	休講		4				1	
		ヨーロッパ文化学研究D	休講		4				1	
	キリスト教文化学	キリスト教文化学研究A	関根清三		4	◎			1	
		キリスト教文化学研究B	柳田洋夫		2		○		1	
		キリスト教文化学研究C	菊地 順		2		○		1	
	日本文化学	日本文化学研究A	清水正之		4	◎			1	
		日本文化学研究B	村松 晋		2	○			1	
		日本文化学研究C	休講		2				1	
	原典講読	研究方法特論 I	森田美千代		2	○			1	
		研究方法特論 II	森田美千代		2		○		1	
		文献講読A (日本文化学)	清水 均		2	○			1	
		文献講読B (日本文化学)	濱田 寛		2	○			1	
		文献講読C (ヨーロッパ文化学)	和田光司		2		○		1	
		文献講読D (キリスト教文化学)	休講		2				1	
		原書講読A (英語)	氏家理恵		2	○			1	
		原書講読B (英語)	氏家理恵		2		○		1	
		原書講読A (独語)	関根清三		2	○			1	
		原書講読B (独語)	関根清三		2		○		1	
		原書講読A (仏語)	休講		2				1	
		原書講読A (ラテン語)	片柳榮一		2	○			1	
		原書講読B (ラテン語)	片柳榮一		2		○		1	
原書講読A (ヘブライ語)		休講		2				1		
原書講読B (ヘブライ語)	休講		2				1			
原書講読A (ギリシャ語)	休講		2				1			
原書講読B (ギリシャ語)	休講		2				1			
演習科 目	演習 (研究指導)	アメリカ文化学A演習 I		4		◎		1	2 演習計8単位以上 選択必修	
		アメリカ文化学B演習 I		4				1		
		アメリカ文化学C演習 I		4		◎		1		
		ヨーロッパ文化学A演習 I		4		◎		1		
		ヨーロッパ文化学B演習 I		4		◎		1		
		ヨーロッパ文化学C演習 I		4				1		
		キリスト教文化学A演習 I		4		◎		1		
		キリスト教文化学B演習 I		4				1		
		日本文化学A演習 I		4		◎		1		
		日本文化学B演習 I		4		◎		1		
		日本文化学C演習 I		4				1		
		アメリカ文化学A演習 II		4		◎		2		
		アメリカ文化学B演習 II		4				2		
		アメリカ文化学C演習 II		4		◎		2		
	ヨーロッパ文化学A演習 II		4				2			
	ヨーロッパ文化学B演習 II		4				2			
	キリスト教文化学A演習 II		4				2			
キリスト教文化学B演習 II		4				2				
日本文化学A演習 II		4		◎		2				
日本文化学B演習 II		4		◎		2				
日本文化学C演習 II		4				2				
1 演習選択必修										
修了要件	30単位以上、かつ修士論文またはそれに代わる研究成果を提出し審査に合格すること。									

○印：週1回授業 ◎印：週2回授業

2018年度博士後期課程カリキュラム				
特殊研究科目	アメリカ文化学特殊研究	高橋義文/森田美千代	通年 1・2・3	1科目選択必修 (在籍期間中)
	ヨーロッパ文化学特殊研究	片柳榮一/稲田敦子/氏家理恵		
	キリスト教文化学特殊研究	関根清三		
	日本文化学特殊研究	田中浩/清水正之		
	総合文化学特殊研究	吉川保弘/藤掛 明/窪寺俊幸		
一般履修科目	アメリカ文化学特殊演習	高橋義文/森田美千代	1	1科目選択必修
	ヨーロッパ文化学特殊演習	片柳榮一/稲田敦子		
	キリスト教文化学特殊演習	関根清三		
	日本文化学特殊演習	清水正之/村松 晋		
	総合文化学特殊演習	他研究科演習担当教員		

# 政治政策学研究科

## 【概要】

政治政策学研究科は、近代デモクラシー思想の根源的研究を通じて、“理念から政策へ”という展開を基盤にして、世界と社会に貢献できる理論と実学の知識を備えた人材を育成する。“精神なき専門人”ではなく、幅広い教養と豊かな精神を持った専門人の養成を目指す研究科である。本研究科は以下に説明する4つの専門科目群を持つが、いずれも高等学校専修免許（公民科）が取得できる。

## 【政治政策学研究科ポリシー】

### ディプロマ・ポリシー

問題の発見や解決策の立案などに関する専門知識および幅広い教養と豊かな精神を高め、かつ専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業（特に税理士）等に必要な能力を養成する。

以上のような目途に即した学業をなし、本研究科所定の単位を修得し、修士論文（または論文に代わる研究成果）の審査に合格した学生に、修士（政治学）の学位を授与する。

### カリキュラム・ポリシー

キリスト教政治思想（政治哲学）と人権尊重を根底に据えた政治や政策の理念を学修する科目群として「共通基礎」を設置し、学生の専門的ニーズに応えるための科目群として「政治・政策分野」「税法分野」「経済・経営分野」「地域共生分野」の「講義科目」を設置する。

### アドミッション・ポリシー

1. デモクラシー思想を基盤とする問題発見・解決をめざす人を求める。
2. 地域の自治体や企業体等の職員・社員として高度な専門的職業人をめざす人を求める。
3. 高等学校・中学校の社会科教員としてより深い知識の修得をめざす人を求める。
4. 幅広い視野と学問的能力の向上を図りながら、税理士など専門職をめざす人を求める。
5. 生涯学習の一環あるいは、社会貢献活動の充実のため高度専門的学修をめざす人を求める。

## 【科目群説明】

### 政治・政策分野

キリスト教的理念に基づき、近代デモクラシー思想を批判的に検討することを通じて、現代社会に貢献できる政治学的、法学的、社会学的理論と政策に関する知識を修得する。

### 税法分野

各税法及び関連する民事法の講義や租税判例等による演習を通じて、税理士試験税法科目免除に対して便宜を図るのみでなく、職業専門家、研究科として必要な研究能力の充実を図る。

### 経済・経営分野

日本経済の政策、事象などを対象に、経済学の理論を活用した分析力を拡充するとともに、多様な組織の経営にとって重要な意思決定手法を学ぶ。

### 地域共生分野

市民の生活などの場である地域社会を、市民参加、文化、公共政策の多角的視点から総合的に研究し、多様な市民が共に生き生きと暮らせる地域社会の在り方を探求する。

2018年度 大学院【政策研】 カリキュラム

科目群	授業科目	担当者	単位		開講期			対象 学年	備考		
			必修	選択	春学期	秋学期	その他				
研究 科目	共通基礎	政治・政策学研究	オムニバス		2	○			1	1科目以上 選択必修	
		デモクラシー・人権研究	谷口/五十嵐		2		○		1		
		研究方法特論A	柴田武男		2		*	集中	1	1・2年次 選択	
		研究方法特論B	木村裕二		2		*	集中	1		
	政治・政策分野	政治学研究	宮本 悟		2		*	集中	1	(演習科目関連の講義科目履修)	
		政治理論研究	高橋愛子		2		○		1		
		公共政策研究	児玉博昭		2		○		1		
		憲法研究	石川裕一郎		2	○			1		
		公共哲学研究	谷口隆一郎		2	○			1		
		現代社会理論研究	土方 透		2	○			1		
	税法分野	租税法研究A	吉川保弘		2	○			1		
		租税法研究B	野田扇三郎		2	○			1		
		租税法研究C	佐藤謙一		2	○			1		
		民法法（総則・物権）	木村裕二		2	○			1		
		民法法（債権）	木村裕二				○		1		
		民法法（親族・相続）	木村裕二		2	○			1		
	経済・経営分野	経済学研究	柴田武男		2	*		集中	1		
		組織行動論研究	八木規子		2		○		1		
		経営文化論	金子 毅		2	○			1		
	地域共生分野	埼玉地域政策研究	櫻井郁夫		2		○		1		
		まちづくり論研究	平 修久		2	○			1		
		地域文化論	佐藤一子		2	○			1		
	演習 科目	演習（研究指導）	租税法A演習Ⅰ	吉川保弘		4		◎		1	(演習Ⅰ・Ⅱは同一科目履修)
			租税法B演習Ⅰ	野田扇三郎		4		◎		1	
			租税法C演習Ⅰ	佐藤謙一		4		◎		1	
			まちづくり論演習Ⅰ	平 修久		4		◎		1	
			政治理論演習Ⅰ	高橋愛子		4		◎		1	
政治学演習Ⅰ			宮本 悟		4		◎		1		
憲法演習Ⅰ			石川裕一郎		4		◎		1		
租税法A演習Ⅱ			吉川保弘		4	○			2	(演習Ⅰ・Ⅱは同一科目履修)	
租税法B演習Ⅱ			野田扇三郎		4	○			2		
租税法C演習Ⅱ			佐藤謙一		4	○			2		
まちづくり論演習Ⅱ			休講		4				2		
政治理論演習Ⅱ			未開講		4				2		
政治学演習Ⅱ			未開講		4				2		
憲法演習Ⅱ			未開講		4				2		
修了要件	30単位以上、かつ修士論文またはそれに代わる研究成果を提出し審査に合格すること。										

○印：週1回授業      ◎印：週2回授業

政治政策学研究科

# 人間福祉学研究科

## 【概要】

人間福祉学研究科は、福祉社会・共生社会の担い手として貢献しうる高度な専門性をもった人材の養成を目的としている。さまざまな領域でひとを支援する業務や役割のなかで探究すべき課題を見だし、その解決策を得ようとする人、現代社会のさまざまな問題のひとつもしくはいくつかに強い知的関心を持ち、理解しようとする人、人間の本質とその日々の営みを理解しようと考えている人に、高度な専門知識の修得と、自ら問いを立て回答を求める研究能力の獲得ができるよう指導する。

## 【人間福祉学研究科ポリシー】

### ディプロマ・ポリシー

人間学的基礎の上に福祉社会の担い手として貢献しうる高度な専門性をもった人材の養成を目的として、それぞれの専攻分野の課題について自ら問いを立て、回答を求める研究能力のあることを示したものに修士（人間福祉学）の学位を授与する。

### カリキュラム・ポリシー

1. 研究能力の涵養と人間学的基礎の確立のために「共通基礎」科目を置く。
2. それぞれの専攻分野において高度な専門知識を得させるために、「福祉分野」「児童学分野」「心理学・臨床死生学分野」の講義科目を置く。
3. 「演習科目」を置き、個々の学生の関心に応じて研究指導を行い、修士論文の完成に至らせる。

### アドミッション・ポリシー

本研究科において求める人。

1. 社会福祉ならびに精神保健福祉の分野において高度な専門性の修得と援助技術の向上をめざす人を求める。
2. 発達・子育て支援の分野において高度な専門性の修得と人間理解の深化をめざす人を求める。
3. 現代社会で生じている多様な心の問題を理解し、心のケアの担い手となることをめざす人を求める。
4. ひとを支援する業務に従事する中で探究すべき課題を見だし、自ら研究することを希望する人を求める。

## 【授業案内】

人間福祉学研究科の授業は研究科目と演習科目に分かれている。

演習科目は個々の学生に対する研究指導と論文作成指導を内容とし、同一教員が担当する研究演習Ⅰと研究演習Ⅱを履修しなければならない。

研究科目（講義科目）は、共通基礎科目、共生社会特論、心理学特論、対人援助特論、児童学特論に分かれ、必修の「研究法入門」以外はすべて選択科目である。それぞれの講義で取りあげる内容は副題として掲げられているので、各自の関心にしたがって履修する科目を選択されたい。



2018年度 大学院【福祉研】 カリキュラム

科目群	授業科目	担当者	単位		開講期			対象学年	備考			
			必修	選択	春学期	秋学期	その他					
研究科目	共通基礎	研究法入門	古谷野豆	2		○		集中	1	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択 (演習I・IIは同一科目履修) 1演習選択必修 (演習I・IIは同一科目履修) 1演習選択必修		
		キリスト教人間学	五十嵐成見		2	○			1			
		調査研究法Ⅰ(量的研究)	古谷野豆		4		◎		1			
		調査研究法Ⅱ(質的研究)	林 葉子		4		◎		1			
	共生社会特論	共生社会特論Ⅰ(福祉思想)	牛津信忠		2	○			1			
		共生社会特論Ⅱ(児童福祉制度論)	田澤 薫		2		○		1			
		共生社会特論Ⅲ(社会的養護の現状と課題)	中谷茂一		2		○		1			
		共生社会特論Ⅳ(子ども虐待の背景と対応)	中谷茂一		2		○		1			
		共生社会特論Ⅴ(高齢者の孤立と社会関係)	古谷野豆		2	○			1			
		共生社会特論Ⅵ(少子高齢社会と生涯学習)	小池茂子		2	○			1			
		共生社会特論Ⅶ(高齢者福祉の歴史と介護保険制度)	古谷野豆		2	○			1			
		共生社会特論Ⅷ(地域包括ケア)	長谷部雅美		2	○			1			
		共生社会特論Ⅸ(リカバリーモデルの精神保健福祉)	助川征雄		2	○			1			
	心理学特論	心理学特論Ⅰ(対人認知と対人魅力)	休講		2				1			
		心理学特論Ⅱ(老後の幸福感)	休講		2				1			
		心理学特論Ⅲ(学習と動機づけの心理)	鎌原雅彦		2	○			1			
		心理学特論Ⅳ(臨床発達心理学)	金谷京子		2	○			1			
		心理学特論Ⅴ(精神分析)	大橋良枝		2		○		1			
		心理学特論Ⅵ(心理検査法)	藤掛 明		2		○		1			
		心理学特論Ⅶ(ストレスマネジメント)	長谷川恵美子		2		○		1			
		心理学特論Ⅷ(健康と医療の心理学)	長谷川恵美子		2		○		1			
		心理学特論Ⅸ(福祉現場の心理学)	堀 恭子		2	○			1			
	対人援助特論	対人援助特論Ⅰ(ストレングスモデルのソーシャルワーク)	助川征雄		2	○			1			
		対人援助特論Ⅱ(ナラティブ・ソーシャルワーク)	相川章子		2		○		1			
		対人援助特論Ⅲ(ソーシャルワーク・スーパービジョン)	田村綾子		2	○			1			
		対人援助特論Ⅳ(ピアサポート)	相川章子		2	○			1			
		対人援助特論Ⅴ(スクールカウンセリング)	堀 恭子		2	○			1			
		対人援助特論Ⅵ(ファミリーセラピー)	村上純子		2		○		1			
		対人援助特論Ⅶ(アートセラピー)	藤掛 明		2		○		1			
		対人援助特論Ⅷ(スピリチュアルケア)	安部能成		2		○		1			
		対人援助特論Ⅸ(キリスト教とカウンセリング)	藤掛 明		2		○		1			
	児童学特論	児童学特論Ⅰ(児童理解)	田澤 薫		2		○		1			
		児童学特論Ⅱ(遊びの文化)	寺崎恵子		2	○			1			
		児童学特論Ⅲ(絵本の文化)	寺崎恵子		2	○			1			
		児童学特論Ⅳ(児童文学)	松本祐子		2	○			1			
		児童学特論Ⅴ(音楽教育)	久保田翠		2		○		1			
		児童学特論Ⅵ(異文化間教育)	佐藤千瀬		2	○			1			
	演習科目	演習(研究指導)	社会福祉学研究演習Ⅰ	休講		2					1	(演習I・IIは同一科目履修) 1演習選択必修
			児童福祉学研究演習Ⅰ	中谷 茂		2		○			1	
			高齢者福祉学研究演習Ⅰ	古谷野豆		2		○			1	
			障害者福祉学研究演習Ⅰ	休講		2					1	
			精神保健福祉学研究演習Ⅰ	相川章子		2		○			1	
			発達心理学研究演習Ⅰ	堀 恭子		2		○			1	
			社会心理学研究演習Ⅰ	休講		2					1	
			ソーシャルワーク研究演習Ⅰ	休講		2					1	
臨床死生学研究演習Ⅰ			藤掛 明		2		○		1			
児童学研究演習Ⅰ			田澤 薫		2		○		1			
児童教育学研究演習Ⅰ			佐藤千瀬		2		○		1			
社会福祉学研究演習Ⅱ			休講		4				2	(演習I・IIは同一科目履修) 1演習選択必修		
児童福祉研究演習Ⅱ			休講		4				2			
高齢者福祉研究演習Ⅱ			休講		4				2			
障害者福祉研究演習Ⅱ			休講		4				2			
精神保健福祉研究演習Ⅱ		相川章子		4		◎		2				
発達心理学研究演習Ⅱ		休講		4				2				
社会心理学研究演習Ⅱ		休講		4				2				
ソーシャルワーク研究演習Ⅱ		休講		4				2				
臨床死生学研究演習Ⅱ		休講		4				2				
児童学研究演習Ⅱ		休講		4				2				
児童教育学研究演習Ⅱ	休講		4				2					
修了要件	30単位以上、かつ修士論文またはそれに代わる研究成果を提出し審査に合格すること。 長期履修制度利用者は、入学年次に演習科目Ⅰ、修了予定年次に演習科目Ⅱを履修すること。											

○印：週1回授業 ◎印：週2回授業

人間福祉学研究所

# 2018 年度修士論文執筆要項

## 修士論文執筆と提出の取り決め

### 1) 修士論文提出資格と主題提出期限

- ① 本大学院に、原則として1年以上在学し、所定の単位を20単位以上修得していること。
- ② あらかじめ論文指導教員の承認を得た論文であること。
- ③ 「大学院研修会」に出席し、修士論文中間発表会（夏期研修会など）で報告したものであること。
- ④ 修士論文の主題は、論文指導教員の承認を得、届出用紙により、当該学年（原則2年次）の5月31日（31日が土・日曜日の場合は直前の金曜日）までに、教務課大学院担当に提出すること。
- ⑤ 既提出の論文主題と学位申請書の記載が異なる場合、論文を受理することができない。修士論文の主題を変更した際は、必ず「論文テーマ変更届」を提出すること。

### 2) 論文の形態と原稿枚数

- ① A4判用紙に40字×30行片面印刷したものとし、枚数は原則30枚程度とする。
- ② 本文のほかに、約2,000字（A4判用紙40字×30行印刷の2枚）の要旨を作成し、添付すること。
- ③ 注記、参考文献など論文の体裁も審査対象となるので、必ず付けること。注記の仕方、参考文献の表示方法は、以下に提示されているので、参考にすること。

### 3) 修士論文提出期限と製本・提出部数

- ① 提出期限は、春学期は、7月31日、秋学期は、1月31日とする。（それぞれ31日が土・日曜日の場合は直前の金曜日）
- ② 字体は明朝体とし、頁番号を付す。
- ③ 「修士論文の表紙・裏表紙例」にあるように提出年度、主題、副題、演習科目、指導教員、学籍番号、氏名を記した表紙と裏表紙をつけ、2穴・左綴じのファイルに綴じ、4部提出すること。
- ④ ファイルには、表紙を付した論文要旨も合せて綴じ、論文表紙と同じ内容を記すこと。
- ⑤ ファイルの表面・裏面には、それぞれ論文の表紙・裏表紙をのり付けすること。
- ⑥ 論文は学位申請書とともに提出すること。
- ⑦ なお、修士論文は、製本し、閲覧できるようにするため、論文審査、口述試験を経て誤植などを訂正した完成版を1部（ファイル及びパンチ穴は不要）とデータを納めたCDを教務課に提出すること。提出時期は、教務課から指示する。

### 《修士論文の表紙・裏表紙例》

<p>(表)</p> <p>2018年度</p> <p>修士論文 &lt;または修士論文要旨&gt;</p> <p>(演習科目 ○○○○○演習Ⅱ) (指導教員 ○○○○○教授)</p> <p>主 題 副 題</p> <p>聖学院大学大学院 政治政策学研究科 政治政策学専攻(修士課程)</p> <p>学籍番号117MP○○○ 名前○○○</p>	<p>(裏)</p> <p>聖学院大学大学院 政治政策学研究科 政治政策学専攻(修士課程)</p> <p>学籍番号117MP○○○ 名前○○○</p>
--	---

※専門分野によって論文の形式は異なります。以下は論文作成時の参考とし、指導教授の指示に従って論文を完成させてください。

## 1 論文執筆の準備 《参考》

### 1. 論文の性格と形態

1) まず「論文」とはどのようなものであるかを理解する必要がある。一般に大学院で提出を要求される「論文」には、下記のものがある。

- ① レポート (Report) —— 報告書一般のこと。作成の仕方や枚数に決まりはない。
- ② ターム・ペーパー (Term Paper) —— 学期の終わりに課題として要求される小論文。
- ③ リサーチ・ペーパー (Research Paper) —— 注をつけた研究の裏づけのある「学術論文」。本大学院で博士後期課程学生に要求する小論文に当たる。
- ④ シーシス (Thesis) —— 「修士論文」のこと。研究主題の分野における第一次資料を読み、これまでの主な研究成果を渉猟し (海外の文献も含む)、その基本的理解のもとに、「学術論文」を執筆し、しかも論文としての体裁 (下記「第3部 論文の体裁」参照) を整えているもの。A4判用紙、40字×30行で、30～50枚が目安である。
- ⑤ ディサテーション (Dissertation/Doctoral thesis) —— 博士論文たるリサーチ・ペーパーのこと。シーシスよりさらに執筆者独自の、固有の説を明らかにしたもの。

2) 「レポート」あるいは一般に考えられている「論文」と本大学院が学生に要求している「学術論文」の違いを明確にするために、「学術論文」の特質を「否定形」で箇条書きにする。(斉藤孝・西岡達裕著『学術論文の技法 (新訂版)』日本エディタースクール出版部、7頁以下)。

- ① 一冊の本や論文を単に要約しただけのものは論文といえない  
どの研究領域であれ、学術論文は、第一次資料を基礎とすることが不可欠である。第二次資料としてこれまでの研究成果を用いることは重要であるが、それらの成果である論文や本を単に要約したものでは論文にならない。参考資料を単に要約しただけのものは修士論文として認められない。  
まず、第一次資料を咀嚼し、これまでの研究成果であるさまざまな学説を比較し、自家薬籠中のものとし、研究者自身の研究論文としてまとめなければならない。そのためには、研究主題に対する自分の立場を確立する必要がある。
- ② 他人の説を無批判に繰り返しただけのものは論文といえない  
学術研究では、研究成果を批判的に吟味しながら、自分の見解を形成していくことが求められる。それゆえ、他人の説を結果的に支持することになったとしても、批判的吟味は欠かせない。
- ③ 引用を並べただけでは学術論文といえない  
研究成果を踏まえるという意味で、先行の研究を引用することは、学術論文に不可欠であるが、引用を並べただけでは、資料になるとしても、論文にはならない。ここでも、引用をする自分の立場を明確にすることが求められる。
- ④ 証拠だてられない私見だけでは論文にならない  
学術論文では、ある結論に導くまでに、論証が必要である。単なる思いつきや私的な感想を述べるだけでは論文といえない。学術論文といいながら私見に基づく「評論」になっているものが多い。結論を裏付ける証拠と論証によって客観的に論ずる。
- ⑤ 他人の業績を無断で使ったものは学術論文といえない  
公刊されているもの、公刊されていないものを問わず、他人の論文や研究成果を無断で使用することは、著作権の保護からも禁じられる。インターネットを利用して、公開されている論文を無断で引用することが問題となっている。出典を明記することが重要である。また引用する場合は文章を「」に括るなどして引用であることを明らかにし、引用箇所を注記する。

## 2. 修士論文作成の手順

### 1) 論文主題の発掘・発見

論文の主題は、指導教授の助言・意見を聞きながら決めるが、修士論文主題を決めるまでに、次のような手順が考えられる。

- ① まず当然のことであるが、自分の最も関心のある主題を選ぶことである。ただ、一般的にあって、最初には選ばれる主題は大きすぎて、とても修士課程在学中の2年間では書けないような主題になりがちである。そこで、自分が関心を持った主題について、先行するどのような研究があるかを調べてみるのが重要である。その場合、日本語の文献だけでなくできるだけ海外の研究にも視野を広げておくことが大切である。
- ② そして当該分野で、何が明らかになり、どの領域がまだ研究されていないかを突き止める。先行する研究の成果を調査しないで独断的に論文を書くことは、独りよがりの論文になりやすい。これまでの研究成果を調べる過程で、主題がより鮮明になり、絞り込まれてくる。
- ③ (i)主題の選択、(ii)資料を調べ、主題を修正する(限定)、(iii)さらなる資料の調査と主題の決定、という過程は循環的に続く。このような修士課程1年目の作業を経て、修士課程2年の5月に主題決定にいたる。言い換えれば、主題の選択と調査研究を繰り返しながら、最終的な主題にたどり着く。この過程こそ修士論文を書く重要な過程である。

### 2) 資料の収集、調査など

選択した主題に従って、必要となる文献を調査し、証拠となる資料、統計などを収集する。

- ① 収集の方法で第一にすすめるのが、聖学院大学総合図書館など図書館、専門資料センターなどの活用である。資料の探し方を学ぶことから研究は始まる。
- ② 齊藤ほか著『文献を探すための本』(日本エディタースクール出版部)、上記『学術論文の技法』には「文献を探すための文献」「専門資料所蔵館一覧」などが載っている。
- ③ インターネットでの資料文献検索は便利である。杉田米行編『人文社会科学とコンピュータ——情報化社会におけるインターネット活用法』(成文社、2001年)の第7章「人文社会科学分野での論文作成のために」は、インターネットでの論文検索の方法を紹介していて参考になる。

### 3) 論文の書き方、文体について

実際の論文の書き方については、参考書が数多く出版されているので目を通すこと。

- ① 櫻井雅夫『レポート・論文の書き方』(上級・改訂版)、慶應義塾大学出版会、2003年。
- ② ウンベルト・エコ(谷口勇訳)『論文作法——調査・研究・執筆の技術と手順』而立書房、1991年。
- ③ 山内史朗『論文マニュアル』平凡社新書103、2001年。

ここに挙げた以外にも数多くの文献があり、それぞれ参考になる。

ここでは、論文の書き方、文体について特に留意すべき、主要な点だけを上げる。

- i 起承転結をはっきりさせる。
- ii 各章の長さ、分量を均整の取れたものとする。  
論文全体の構成にも関わるが、序論、本論、結論の流れを明確にし、本論の各章のバランスを考えて執筆する。
- iii だらだらと長い文章が続かないように、文章をきる、あるいは、段落を設ける、などの工夫をする。
- iv 文章を推敲し、読みやすいものにする。
- v 辞書を参照し、誤字誤用のないように注意する。  
コンピュータ入力になり、文字変換ミスもあるが、誤字を使う例も多く見かける。国語辞書などを参照すること。また欧文の引用、文献などで一行の最後で単語を切らざるをえないとき、辞書でhyphenationを確認して切ること。

### 4) 文献引用の準備

上で述べたように学術論文では、無断引用は剽窃とみなされる。したがって引用は明記しなければならない。そこでここでは、資料調査段階での引用の準備の仕方を述べよう。

① 引用文献名は一般的に下記のように表記をするので、引用箇所の抜書きとともに、カードに転記しておくとお便利である。

- i 単行本の場合——著者、書名、出版地・出版社（者）、出版年、頁、全集（双書）名・巻数（番号）、注記。
- ii 雑誌（論文集）論文の場合——執筆者、論文名、収録雑誌名（論文集名）、巻号、刊行年月日、頁数。
- iii 新聞記事の場合——収録新聞名、発行年月日、頁数。
- iv 邦訳書名の場合——原著者名、訳書名、訳者名、出版地・出版社・出版年、頁数（原綴りで著者名、書名、出版地・出版社・出版年、頁数）。

② 引用箇所を明記する。詳しくは、「3 文献引用と表記の仕方」で述べるが、引用文の後にすぐ参照文献を入れる場合（括弧方式）と注記する場合（注記方式）がある。

- i 括弧方式の場合は、本文中では括弧の中で略記し、参考文献一覧を巻末につける。
- ii 注記方式の場合は、注で参考・引用の文献を記す。

③ インターネットのサイトの表示

近年のインターネット環境の進展は、学術情報の世界にも大きな変化をもたらした。電子ジャーナル、電子書籍など、電子媒体が登場したことである。インターネット、電子メディアによる学術情報の出版は、学術情報の発表を極めて容易にした、また発表までのスピードが速くなった、ハイパーリンクによってさまざまな資料を参照できるようになった、など、これまでの紙メディアによる出版を凌ぐ多くの利点がある。しかし、まだ、インターネットによる学術情報の出版は、10 数年しか経過しておらず、発展途上であり、さまざまな問題も指摘されている。①剽窃の問題——インターネットから簡単にコピーできることから生じる「コピペ」といわれる問題、②引用ページの問題——html 言語では、スクロールして読むため、紙メディアのように引用ページを明示できない、③サイトが不安定——サイトの管理者によりサイトが中止される場合がある、④テキストの不確定——テキストの改訂が自由にできるので、引用した内容が変わってしまう場合もある、などの問題である。

インターネットのサイトを注記する場合は、これらの問題点を踏まえて引用する必要がある。特に最終的にサイトの存在を確認した日付を入れる。

例：〈以下のウェブサイトの URL は、2013 年 4 月 20 日に確認〉

引用の仕方について、詳しくは林紘一郎・名和小太郎『引用する極意引用される極意』（勁草書房、2009 年）が参考になる。

## 5) 注の位置

注の位置によって名称が異なり、性格が異なる。学術論文では、下記の 4 種類がある。

- ① 脚注——横書きの各頁の下に注記を書く。本文のすぐ近くで注を参照できる便利さがある。ただし、短い注はよいが、長い注の場合、次頁の下にまで掛かることもあり、読みにくくなる場合もある。
- ② 章（節、項）末注——各章の最後にその章をまとめて注記を書く。本文の比較的近くに注記を置くことができ、参照しやすい。また長い注も可である。
- ③ 巻末注——論文の最後にまとめて注記を書く。注の原稿を作成しやすい。
- ④ 割注——文章の中に割注として、小さい文字で入れる仕方がある。割注は、脚注よりさらに本文の近くで参照できるが、短い説明などに限られる。

コンピュータで注をつける機能がついているものは、脚注、章末注をつけやすくなっているが、聖学院大学大学院では「巻末注」を採用する。

## 6) 誤字・脱字・変換ミス・校正もれのチェック

論文が書き終わったときに、誤字・脱字をチェックする。毎年、修士論文審査の段階で脱字、誤記を指摘され、再提出を指示される学生が多い。提出まえに他の学生などに読んでもらうのがよい。コンピュータでは変換ミスが起こりやすいので注意を要する。

## 2 論文の体裁と執筆《参考》

### 1. 論文の構成

論文は、前文・本文・参考事項（注、参考文献、付録）により構成される。

- 1) 前文には、標題紙、まえがき、目次、などが含まれる。
  - ① 標題紙には、主題、副題、指導教授名、学籍番号氏名などを記す。
  - ② まえがきには研究の動機、目的、調査の範囲などを説明する
  - ③ 目次は、全体の構成が分かるように見やすいレイアウトになるよう工夫する。
  - ④ その他、文献などの略語表、用語の説明などをつける場合もある。
- 2) 本文は、論文の主要部分である。序章、部、章、節、項などに分けて執筆するのがのぞましい。（分量が少ない場合は、必ずしも節、項に分ける必要はない。）
  - ① 序章は第1章と名づけることもあるが、短い場合は、「序」でもよい。問題設定、研究史の要約などが書かれる。
  - ② 部、章は論文の主要部分を区分けするものである。部では扉をつける、章では頁を改める。
  - ③ 節、項は論文が大きくなったとき、細分するために設ける。（過去の例に、項に数行を記述し、節で1ページに満たないものがあつたが、これは無意味な分割である。）
- 3) 参考事項には注、参考文献、付録などが含まれる。

### 2. 見出しのつけ方

- 1) 前文の見出しは、  
まえがき  
目次 とする。
- 2) 本文は  
第1部 ○○○○  
第1章 ○○○（序章とする場合もある）  
第1節 ○○○  
1) ○○○○  
のように、見出しをつける。部から節へ見出しの文字の大きさを大から小へ変えていくと読みやすい。ただし、ひとつの項目に、2、3行しかないという見出しのつけ方は避ける。
- 3) 注の表記は下記を参照。
- 4) 参考文献リスト、付録は、頁を改めて、独立させる。  
参考文献リストは50音順、あるいは欧文献が多い場合はアルファベット順にする。  
付録に表、図が入る場合は、図1、表1など番号をつける。

### 3. 文献の引用と引用文献の表記の仕方

学術論文では、他の著書・論文の単なる翻訳や要約は避けなければならない。また、無断引用は断じてしてはならない。そこで、他の文献を参照した場合、あるいは文献から文章を引用する場合は、参照、引用箇所を明記する必要がある。とくに文章をそのまま引用する場合、短い文章は「」で括る。また長い文章の場合は、本文から2字分さげ、引用であることをはっきりさせる。本文との間に1行あけることもある。さらに引用文献と引用箇所を明記する。

#### 1) 引用文献の表記の仕方

引用文献の表記の仕方には、(1)括弧方式、(2)注記方式の2種があり、学会によっては、どちらかに決めているが、一般的にはどちらかに決められず、それぞれ用いられている。

##### (1) 括弧方式

文中で、引用した文献について、簡略した表記で、括弧書きで記述する方式である。

- ① 単行本、雑誌の場合——著者、発行年、頁数

例1 「数多くの学生の論文を読んでいると千手観音像の『手』を思い浮かべる」(尾川、1976年、79)

頁)。この場合、巻末に引用文献表を作成する。

例：尾川正二、1976年、『原稿の書き方』講談社。

ひとりの著者が同じ年度に多くの著書、論文を発行している場合は、発表順に abc と区別していく。

例2（尾川、1976年 a、79頁）巻末の引用文献表も、尾川正二、1976年 a、『原稿の書き方』講談社。

② 新聞記事の場合——新聞名、発行年月日、頁数。

例 「最大の難題は国家主権の問題だ」（朝日新聞、2001年2月2日、17面）。

(2) 注記方式

① 単行本（単著）——著者名『書名』、出版社、出版年、引用（参照）頁数、双書（全集）名、番号の順で表記する。

例(1) 松永昌三『福沢諭吉と中江兆民』中央公論新社、2001年、132頁、中公新書1569。

例(2) 桜井哲夫『フーコー——知と権力』講談社、1996年、216頁、現代思想の冒険者たち26。

② 単行本（共著・編著）——著者名、「論文名（章）」編者名『著書名』出版社、出版年、引用頁数。

例：田中豊治「リンゼイとウェーバー——『市民的なるもの』をめぐって」永岡薫編著『イギリス・デモクラシーの擁護者 A. D. リンゼイ——人と思想』聖学院大学出版会、1998年、130-135頁。

③ 単行本（翻訳）——著者名『翻訳書名』翻訳者名、出版社、出版年、引用（参照）頁数、双書（全集）名、番号、注記の順で表記する。

例(1) アウグスティヌス『ペラギウス派駁論集(3)』金子晴勇訳、教文館、1999年、218頁、アウグスティヌス著作集25。

④ 単行本（原書と翻訳）——原著者名、原書名（イタリック体）、発行所名、発行年（翻訳者『翻訳書名』発行所、発行年、頁数）。

例(1) A. D. Lindsay, *The Good and the Clever*, O. U. P., 1945, p. 101. (古賀敬太・藤井哲郎訳『オックスフォード・チャペル講話——デモクラシーの宗教的基盤』聖学院大学出版会、2001年、163頁)。

⑤ 単行本（欧文）——同上。

例(1) Michael Walzer, *On Toleration*, Yale University Press, 1997.

⑥ 雑誌論文——著者名「論文名」、『雑誌名』、巻数、号数、発行所、発行年、引用頁数。

例(1) 肥前栄一「マックス・ウェーバーのロシア革命論——ロシアにおける国家と市民」『聖学院大学総合研究所紀要』17号、聖学院大学総合研究所、2000年、13-40頁。

例(2) 大澤真幸・山之内靖「受苦者の連帯は可能か」『アソシエ』IV号、お茶の水書房、2000年、251-277頁。

⑦ インターネット・サイトからの引用。

例(1) "Fresco Painting." *Encyclopaedia Britannica Online*. 2002. Encyclopaedia Britannica. 9 February 2004 <<http://search.eb.com/>>

例(2) 「企業組織再生プランの法務&税務」『税務解説集 企業組織再生プラン』2010年2月27日 <<http://www.tabisland.ne.jp/explain/kgiyou2/index.htm>>

2) 引用文献の略記の仕方

① 文献の略記の仕方

1) 同書、〇〇頁。引用した文献をすぐ後で、また引用する場合。

欧文では、*ibid* を使う。

例(1) Herbert A. Simon, *Administrative Behavior-A Study of Decision-making Processes in Administrative Organizations*, fourth edition, the Free Press, 1997, p. 55.

(2) *Ibid.*, p. 82.

2) 著者名『前掲書』〇〇頁。引用した文献の次に別の文献を引用し、その次に先の文献を引用する場合。この場合、著者名と引用頁数は必ず明記する。

欧文では、*op. cit.* を使う。opere citato の略。ただし *The Chicago Manual of Style* などでは、文献が多い場合はどの文献かを表示できないため、最近はあまり使われなくなっているとある。上記の



引用文献の表記の仕方、括弧方式の例2のような略記のしかたが一般的になっている。

例(1) Elizabeth L. Eisenstein, *Printing Revolution*, Cambridge University Press, 1983, p. 25.

(2) 別の文献が入る。

(3) Eisenstein, *op. cit.*, p. 35.

ドイツ語では、am angeführten Orte の略である、a. a. O. を使う。

例(4) a. a. O., S. 23.

その他 l. c., loc. cit. loco citao 「上述の箇所」などを使う場合もある。

(『欧文表記ハンドブック』日本エディタースクール出版部、1983年、参照)

② 引用頁の表記

〇〇頁、〇〇—〇〇頁とする。欧文の場合、英語では、p. 34、pp. 34-5、ドイツ語では S. 34.

#### 4. 注のつけ方

学術論文において、注は重要な意味を持つ。いたずらに注を多くつければよいということではないが、引用文献の出典の表記また、議論を補足し、研究の経過や、今後の発展を示す意味でも注を活用することを検討すべきである。注の内容には下記の2通りがある。

1) 説明のための注

本文における議論を補足するもの。本文が幹であるとするとき、枝葉に当たる部分で、副次的な議論を注に記す。

2) 引用文献の注

① 上記、注記方式の場合、文献を注記で記す。

② 論文中で扱われる資料、図表についての説明を注に記す。

#### 〈注意〉

以上は論文作成において、参考として欲しいルールをまとめたものである。特に論文の枚数は各研究科によって異なるが、本大学院は30枚を目安としている。内容の伴わない分量は論文の質を下げることになるので、明確なテーマ設定を行い、的確な資料を用いて論文を作成することが重要である。実際に修士論文を執筆するに当たっては、このことをふまえて指導教授に相談し、助言や指導を受け、添削などを得ることも必要であろう。

また、提出締切日の1ヶ月前には修士論文全体を書き終え、指導教授に通読していただく姿勢が欠かせない。その後の提出までは、指導教授の最終指導を受けながら、文章の修正や誤字脱字の訂正を丁寧に行う期間としたい。

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科  
博士後期課程カリキュラム

## 〈文化研博士後期課程カリキュラム概要（2018年度版）〉

博士後期課程	在籍中 共通	①在籍期間中「特殊研究」科目を履修する。〈論文指導・個人指導・自主研究〉 * 教員と学生とで授業時間等を決定する。 ②指導教員の指導に基づき、総合研究所研究会や各種研究会・学会に参加する。
	1年次	①博士前期課程科目とリンクした下記科目を履修する。 * 「特殊演習」（修士課程/博士前期課程；演習Ⅰ科目）の中から1科目以上選択履修。 ②小論文（各文化学に関する一般的なテーマ）を1篇作成。（12,000字程度） * 指導教員から出題されたテーマに則し、論文作成を行う。 ③成績評価は「履修科目」「小論文」毎にP（合格）、F（不合格）で表記する。 ④語学試験（Language Requirement）のために必要な語学科目の履修。
	2年次	①博士論文提出資格試験（Qualifying Exam. 以下「QEと略」）として以下を課す。 a) 複数（2篇以上：1篇12,000字程度）の小論文の作成。 ア) テーマは博士論文に即したものとする。（博士論文の章に相当する小論文とする） イ) 2年次7月及び3年次5月に公開研究会で発表する。 b) 語学試験（Language Requirement）として、外国語2科目を課す。 * 取扱いについては別に定める。 c) 不合格の場合は、一定期間後に再受験を許可する。 ②成績評価は「各小論文」「語学試験」「特殊研究科目」毎にP・Fを表記する。
	QE 合格者	①博士論文研究計画の提出（指導教授が必要と認めた場合） ②「博士論文」の作成
	3年次 秋学期	①予備審査用博士論文提出（11月）と予備審査（1月）の実施 ②予備審査合格者に対する最終試験（口頭試問）は博士論文提出後の半年以内に実施
修了(要件) と 課程博士 授与	【修了要件及び博士論文予備審査】 ①博士後期課程3年以上在学し、上記の必要な要件を満たす。 ②レフリー付論文（同等のもの）2本以上を公表する。 ③博士論文予備審査に合格（研究科教員による論文審査）する。 以上をもって、博士後期課程の論文審査と最終試験（口頭試問）へ進むものとする。	
	【博士論文最終試験（口頭試問）】 ①博士論文予備審査合格者に対する最終試験（口頭試問）は、以下の要領にて実施される。 a) 最終試験（口頭試問）は、原則として公開とする。 b) 最終試験（口頭試問）は、2月及び7月に実施し、2月実施合格者は3月の卒業式において、7月実施合格者は翌年3月卒業式にて博士学位記がそれぞれ授与される。 ②最終試験（口頭試問）に合格した者は、当該課程を修了し、『博士（学術）英文表記はPh. D.』が授与される。 ③「最終試験（口頭試問）」に不合格の者は、引き続き当該課程に在籍し、博士論文予備審査を受けなければならない。	
その他	①在籍年数は6年を越えないものとする。 ②在籍2年以上でQE合格者は、全員博士論文予備審査論文（含、未完成）を提出する。 ③在籍4年以上（QE合格及び予備審査論文提出者）の退学者は「満期退学」となる。 ④在籍4年以上でQE合格者は、以降の授業料が免除される。 ⑤満期退学者及び課程を経ない者の博士学位申請論文は、論文博士として別に定める。	
論文及び 要旨等の 公表	①博士学位を授与した日から原則1ヶ月以内に論文要旨と審査結果をインターネットの利用により公表する。 ②博士学位を授与された者は、博士論文の全文を原則として学位授与日から1ヶ月以内に聖学院学術情報発信システム（SERVE）により公表する。	

### 【備考】

#### I) 語学試験（Language Requirement）の取り扱いについて

- ア) 第一外国語に関して、英語は「入試の英語」で置換える。
- イ) 第二外国語は「独・仏・ギリシャ語・ラテン語・ヘブライ語」の中から1ヶ国語を選択受験する。
- ウ) ただし前項「ギリシャ語・ラテン語・ヘブライ語」の古典語については、本大学院博士前期課程開設科目の履修修了、あるいは他研究教育機関で履修した履修証明書で合格と見なす。（4単位もしくはそれと同等）
- エ) 第二外国語に関しては、指導教員及び研究科委員会の承認を得て、これを免除する場合がある。

博士後期課程 学位取得までの流れ  
(3年在籍モデル)

学位授与フロー				研究指導内容	
1年次	4月上旬	ガイダンス・履修相談	語学試験 (2科目)	レフリー付論文(同等のもの) 2本以上の公表 在籍中の特殊研究科目履修(論文指導)	指導教授は学生が出願時に提出した「研究計画書」を基に協議の上で指導を行う。
		特殊研究履修			
	7月中旬	指導教員・副指導教員の決定			
		大学院研修会(公開研究会)出席			
	9月下旬	特殊演習(演習Ⅰ)履修			
研究計画書提出					
12月中旬	小論文Ⅰテーマ決定	指導教員は小論文Ⅰのテーマを学生に与え、指導を行う。			
2年次	4月上旬	特殊研究履修			指導教員は博士論文に即した内容の小論文Ⅱ、Ⅲのテーマを学生と与え、指導を行う。
		小論文Ⅱ、Ⅲテーマ決定			
7月中旬	大学院研修会(公開研究会)小論文Ⅱ発表	指導教員は大学院研修会に向け、小論文Ⅱの指導を行う。研修会では出席教員が学生の発表に対して助言を与える。			
3年次	4月上旬	特殊研究履修	指導教員は公開研究会に向け、小論文Ⅲの指導を行う。研究会では出席教員が学生の発表に対して助言を与える。		
	5月下旬	公開研究会小論文Ⅲ発表	指導教員は論文の完成に向け指導を行う。		
	11月中旬	予備審査論文提出	主査(指導教員)、副査(原則2名以上)からなる予備審査会を設置し、学位論文予備審査を行う。		
	12月上旬	予備審査	下記条件を満たしたものに限り、学位論文審査に進むことができる。 ①博士後期課程に3年以上在籍し、論文公开发表、語学試験合格からなる博士論文提出資格試験(QE)をクリア ②レフリー付論文(2本以上)の公表 ③学位論文予備審査の合格 学位論文審査に進む者は、改めて学位論文審査用の博士論文を提出しなければならない。		
		予備審査結果通知			
	1月中旬	学位論文提出			
	2月中旬	学位論文審査		主査(指導教員)、副査(2名以上)からなる審査委員会を設置し、学位論文審査を行う。	
	2月下旬	修了判定		審査委員会による審査結果を基に、研究科委員会にて学位授与の可否を決定する。	
	3月上旬	修了生発表			
	3月中旬	学位授与			
学位授与後	4月中旬	博士論文要旨・審査結果・博士論文公表			

II) 論文博士の取り扱いについて

- ア) 論文博士の学位論文審査を願う者は、10月までに「履歴書」「教育研究業績書(論文目録)」「論文内容要旨」を学長宛に提出し、学長の付託を受けた審査委員会が「論文審査の可否」を決定する。
- イ) 論文審査を可とされた者は、その後の審査について学位規程第6条に基づき「課程博士の審査と同様」とする。
- ウ) 博士学位申請論文は、既刊の著書もしくは論文(複数)もしくは著書と論文(単数、複数)を用いることができる。

## 【課程博士論文執筆と提出の取り決め】

(2018.3月改定)

### 1) 博士論文予備審査及び博士論文提出資格

- ① 博士後期課程3年以上在学し、必要な要件を満たす。
- ② 博士論文予備審査(研究科員等による論文予備審査)に合格する。
- ③ 予備審査用論文の提出期限は11月中旬とする。
- ④ 博士論文の提出期限は、博士論文予備審査に合格した者に限り、1月中旬とする。

### 2) 形態と原稿枚数(予備審査用博士論文も同様)

- ① 論文の形態は、A4判用紙40字×30行片面印刷、枚数100枚以上とする。
- ② 論文には、本文のほかに約5,000字(A4判用紙40字×30行印刷の4枚内)の論文要旨を作成し、添付すること。
- ③ 注記、参考文献など論文の体裁も審査対象となるので、必ず付けること。注記の仕方は「脚注」「章末注」「巻末注」のいずれでも構わないが、形式を統一すること。
- ④ 頁番号の打ち方は、以下の通りとする。
  - a) 論文要旨及び博士論文は、それぞれ別個に頁番号を打つ。
  - b) 表紙、扉及び目次には頁番号を打たない。
  - c) 頁番号の位置は、ページの下の中央とする。

### 3) 製本・提出部数

- ① 博士論文と予備審査用博士論文は同様の形態とする。
- ② 論文の字体は明朝体とし、紙質は中性紙を用いる。
- ③ 論文は参考例のように提出年度、主題、副題、指導教員、学籍番号、氏名を記した表紙と裏表紙をつけ、5部提出すること(予備論文は3部)。また論文データをCDに収め、併せて提出すること。(簡易製本を推奨する。)
- ④ 各論文には論文と同様の表紙、裏表紙を備えた論文要旨を添付すること。(単著の場合は別途論文要旨を提出。)
- ⑤ 論文と要旨は簡易製本を推奨する。

### 〈参考例〉

(表)
2018年度
博士論文
〈または予備審査用博士論文〉
(指導教員〇〇〇〇教授)
主 題
副 題
聖学院大学大学院
アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科
(博士後期課程)
学籍番号116DC〇〇〇 名前〇〇〇

(裏)
聖学院大学大学院
アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科
(博士後期課程)
学籍番号116DC〇〇〇 名前〇〇〇